

特・1052

精神薄弱幼児の治療教育の研究(2) —自己活動の発達—

○西山 恭子 川島 杜紀子 小林 節子 津守 真 堤 順子
(日本総合教育研究所) (同左) (お茶の水女子大学) (同左) (日本総合教育研究所)

目的: 子どもの自己活動を促進させる教材として
感覚教材、すなわらドーフ、泥粘土、ビニール粘
土、紙粘土、フィンガーペンティング、フートペ
ンティング、マジック、クレヨン、ポスターカラ
ーによるペンティング、ちぎり紙、はり絵等と考
えることができる。今回は主にドーフ、その他の
粘土を中心にとりあげ、精神薄弱児がこれとどのよ
うに扱うか、またどのような指導とすることによ
り、いかなる行動の変化を生じるかを明らかにし
ようとした。

方法: 記録の中より、該当する場面をとり出して
行動分析および指導場面の分析を試みた。

結果:

1. 全体的考察

ドーフ、その地の粘土

(1) 一貫してみられる行動

表I

行動	39年 4月~2月	40年 4月~7月
投げる	5.6%	3.2%
ちぎる	11.0	9.3
ペタペタ叩く	3.0	8.2
引っばる	1.5	5.9
切る		2.6
穴をあける	2.0	4.4

表Iに示された
子どもたちの行動
は、粘土を扱うに
あたって、最も初
歩的な扱い方であ
り、同時に基本的
な扱い方であると
いえる。しかし、最も多い“ちぎる”という扱い
方でも、わずかに全体の11%という低いパーセン
テージを示している。つまりこれは、個々の子ども
によって、行動が多様多様であることを意味し
ている。程度の低い子どもにみられる行動を例記
すると、なめる、顔に近づける、すくい投げ散ら
す、あごのところでペタペタする、もつて歩く、
他の子どもがドーフをとる、においをかぐ、作品
をこねす等である。これに対し、比較的程度の高
い子どもに多くみられる行動は、ポケットに入れ
る、人形に食べさせる、おぶる、めん棒でのぼす
へうごつく、トンネルの下をくぐらす、型を押
しつける、顔をつくる等がみられる。 —後略—

2. 自己活動発達の例

解放されていく過程 (ドーフ)

(1) まさひろ 35年11月生れ

39年4月入グループ IQ60

表II

	1月11日	2月4日	4月26日
指導者	まさひろ	まさひろ	まさひろ
導入	自発的参加 場面参加	場面参加 退出	自発的参加 導入
禁止	投げる	導入	発展1
誘導	投げる	誘導	発展2
	模倣	破壊	場面移動
	発展1	発展2	誘導
	投げる	誘導	発展3
誘導	発展2	指示	退出
誘導	投げる	指示	発展4
指示	従わない	誘導	命令
指示	従う	誘導	拒否
誘導	発展3	誘導	

39年度3学期および40年度1学期を通じて
まさひろのグループのドーフ場面の記録7回のう
ち、比較的まさひろの行動がはっきり出ている4
回の場面の過程を追ってみた。紙面の都合上、1
月、2月、4月の3場面を記載してみた。この3
場面を比較してみても、4月には、1月11日に4
回みられる“投げる”が1回も表われていない
。さらに2月および4月には、導入からすぐに自
発的發展が行われている。発展の内容も1月11日
は“両手でのぼしてちぎる。”“汽車パツポときく
。”“ドーフを上に投げて楽しむ。等であるが、4
月26日の発展過程をみると、“ドーフのかたまり
をこねる。大きい塊に指で穴をあけてアナとい
う。”“穴の中に小さなドーフをつめる。”“めん棒で
ころがす。等ドーフの扱い方に大きな進歩がみ
られる。 —以下略—

(2) あや

—省略—

3. 指導者の指導・指示と子どもの反応

(1) ドーフ、その他の粘土

表III () はことばを伴っている

指導・指示		反 応	
		1月～3月	4月～7月
導 入	ドーフをみせる	拒否 1 無反応 3 場面参加 1	場面参加 3
	「白よ、練よ」	消極的参加 2 場面参加 1	
	ドーフを渡す	拒否 1 消極的参加 1 場面参加 1	拒否 1 場面参加 3
誘 導	「どうぞ」「できました」「あげます」といつて渡す	(場面参加) 1 発展 2	(場面参加) 2 1
	活動と豊富にするための誘導	ころがす	拒否 2 場面参加 1
	引っぱる	場面参加 2	場面参加 2
	構をつつく	模倣 1	
	ちぎる	模倣 3	
	ペタペタ叩く	模倣 2 発展 1	模倣 2 発展 1
	こする	無反応 1	模倣 2 発展 1
	構にとおす	場面参加 2 模倣 1 発展 1	場面参加 1 模倣 2
	まるめる	模倣 1 発展 1	模倣 1 発展 2
イ ン テ リ ヤ の 誘 導	トンネルをつくる		(場面参加) 1 発展 1
	汽車をつくる	破壊 3 (場面参加) 1	(場面参加) 2 発展 1
	花をつくる	(場面参加) 1 発展 1	
強 制	はっぱをせよとする		拒否 2 場面参加 拒否 1
	はっぱを渡す	場面参加 1	
禁 止	はっぱをはいけません	従わない 1	
	○○ちんこにあげて	無反応 1	従う 1

興味ある現象として導入、あるいは展開場面における誘導の際、子どもはドーフを渡す場合、動作指示による誘導と、これにさらに言語指示を加えた場合の反応の相異が、はっきり表われている。前者は拒否、並びにもつて歩く、すぐ商れるが又来てつっ立っている等の消極的場面参加という反応がみられ、後者は、ことばを伴った場面参加、すなわち「ハイ」とうけとる、「あーます」とおじぎをする、「タワシ、ニイタケ、オハギ」等ことばでの反応があらわれている。 —後略—

(2) ちぎり紙

表IV () 内数字は参加人数

指導・指示	反 応	
	1回目 2月17日(6)	2回目 2月20日(6)
破いてみせる	みる 1 ハイどうぞと紙を出す 1	笑う 2 破る 3 首を振る 1
破いてちぎうだい	ハイどうぞ	ちぎる 1 うけとって破る 1 (3回破る)

○指導場面において対象を定めない場合の反応

「ホラ深山ほれたね」	誰もみない
「ここにはりますよ」	誰もみない
汽車をほつて	1回目 誰もみない
「車がつきますよ」	2回目 4名中1名みる

○指導場面において対象を定めた場合の反応

「お花をつくりましょう」	みている「ヒコーキ」
自動車を切ってみせる。	
「ブーブーができました」	笑ってみている
「車がないですね、車ついたらちぎうだい」	「ハイ」紙を出す
「汽車ポッポ」紙を並べる	「なあに、駅？」
「汽車ポッポ並べてごらん」	「なあに？」一寸坐っていつてしまう
「これ何みたい？」	無反応

—以下略—